

写真で見る「ジグソー活動」を取り入れた授業

宇出津小 尾形正宏

2014/03/15

3年生国語の時間に「ジグソー活動」を取り入れてみました。本格的に、「ジグソー活動をやっている」と意識してやるのは、はじめてです。

結論を先に言えば、子どもたちの活動はたいへん多くなります。そして、教室は騒がしくなります。さらには、時間が足りなくなります。

参観した先生方の感想には、「子どもたちはたいへん活動的だった」「ジグソー活動の有効性が分かった」という積極的な評価と共に、「もうすこし、じっくり個人が書く時間があればいい」といったものがありました。どれも、私が事前に予想したとおりの感想でした。なによりも、いつもは全くやる気のない M が、参加していたこと一つとっても、この活動を取り入れた意味があったと思います。

では、写真に沿って、何をしていたのかを思いだしてみます。

■導入(自信度を聞く)

まず、最初に「これから自分たちで物語を作っていく」ことを宣言し(ま、すでに知っているのだが)、子どもたちに、「自分で出来そうかどうか」ということを聞いてみました。いわゆる自信度です。

黒板の下に、自分の「ネームプレート」を貼ってもらいました。



←自信

不安→

授業のあとで、もう一度、自信度を聞くのです。そのときに、少しでも、子どもたちのプレートが「自信あり」の方に、移動することを願ってのことです。

これは、指導案にはありません。なんとなく、朝、考えたんです。

この1時間の授業が、「ものがたりづくりも楽しそう」となるという確信がないと、人が見に来る授業で、こんな冒険は、導入できません。だから、結構悩んだのですが、「ジグソー活動」を信頼してみたというわけです。

■やり方の説明

ジグソー活動の説明をします。

エキスパート活動は、「専門家活動」と名付けてみました。こちらの方が、「おお～、おれは専門家になったのだな」と意識しやすいからです。

画面には、1年生からこれまで、子どもたちが学習してきた国語の教材名や、朝の連続小説で読んで来た本のタイトルを紹介しました。子どもたちに、いろいろな物語の具体的な場面を思い浮かべて、多様な言葉を引き出すためです。

しかし、結果的には、あまり効果がなかったようです。

せめて、なにか取り上げて、確認すればよかったかも知れません…でも、そうすると、時間がなくなるけどね。



■専門家活動

なんせ、活動のやり方も説明しなければならなかったのが、専門家活動もジグソー活動も、十分な時間を取れませんでした。「もう終わりー」と叫んでばかりいましたからね。

用紙を4色用意して、マジックで書いてもらうことにしました。これも、朝、ギリギリまで考えて、やったことです。

当初は、ワークシートを用意して、出てきた言葉を書き込み、それを元に、ジグソー活動で交流しようと思っていたのですが、どうも、時間的にみて、無理に思ってきたのです。そこで、紙に直接書き込み、ジグソー活動でも、その紙をつきあわせるだけで、文が作れるように配慮しました。



■ジグソー活動

4色の紙を持ち寄って、ジグソー活動です。

まず、簡単に、専門家活動で出た言葉を紹介し合います。そのあとで、それらを組み合わせて、一つ以上、文を作ってもらいました。右の写真の子は、「ある日のこと、火星のどうぶつ園で、じゅうみんたちが…」と書き進めています。

ほとんどの子が、喜んで文を作っていました。



■クロストーク

最後は、ジグソー活動で出てきた「文」を紹介し合いました。

カレンダーの裏紙を用意して、グループで出てきた「文」をマジックで書き、黒板に貼ってもらいました。

出てきた文を写真から読み取ると…

「みらいの金星で、少女が…、俺の腕に隠れている」

「日が西にしずむころ、公園で、先生が、〇〇をひろった。」

「日が西にしずんだころ、昔なくなったゆうれいせんが、出てきた。」

「むかしむかし、子どもが、ゆうれいせんをぬすんだ。」

「昔昔、うちゅうで、少年が、ほうせきを見つけた。」

「ある日、火星で、おばあさんが、ゆでたまごをふんだ。」

「ある日、公園で、さとしが友とであった。」

これは、Mのいる班のもの。Mくんが「さとし」をどうしてもいれたくて、出来た文。

「ある日、とっさまが、動物園で、おとしものをひろった。」

「ある日のこと、火星の動物園で、じゅうみたんたちが、いっしょに変身した。」

「ある夜、子どもが、ゆうれいせんを作る。」

と、楽しそうに文を紹介してくれました。そして、同じ言葉を使っている、微妙にニュアンスの違う文になることに気づくことが出来たようです。



■まとめ

まとめは、適当に書いたのですが、「指導案に書いてあったように、書けばよかった」という指摘がありました。そりゃそうだ。



最後に、ネームプレートを動かしてもらいました。自信はあったけど、これほどとは…。黒板左端にはみ出るようにして、名前が貼られました。みんな、少しは左に移ったので、今日の授業は、一応、成功でしょう。

何よりも、子どもたちは、楽しんで活動してくれましたからね。

小中連絡会でも「ジグソー活動」を試してみました

調子に乗って、小学校で行われた小中連絡会（うちの地区の全教員が参加する年に2回の会）でも、ジグソー活動を紹介してみました。というか、実際に体験してもらいました。

■エキスパート活動

以下の柱（これは、うちの地区で連携した取り組みとして、4月に話し合ったやつ）で、エキスパート活動を行う。

- A 自問清掃について
- B 総合学習について
- C 情報機器について
- D 学び合い活動について

各グループには、必ず小中の職員が入る。

この活動のなかで、小中の実践を交流すると共に、「その活動を支えるために、小中連携で大切なことは、なんだと思うか」を出してもらおう。

■ジグソー活動

その後、A～Dから、一人ずつ集まり、ジグソー活動を行う。

ここでは、エキスパート活動で出た意見を交流すると共に、小中連携で必要なものをキーワードでまとめてもらう。

これは、時間がなくて、なかなか一つのキーワードにならないグループが多かったようです。

■クロストーク

最後に、グループで出て来た意見を交流しました。

■まとめ

いちおう、まとめのようなものも必要なので、わたしが、クロストークの結果をまとめてみました。

中学校長の最後のあいさつに、「貴重な学習体験をさせてもらった」という言葉があり、まあまあやってよかったと思います。